

平成28年度第1回 山陽小野田市地方創生協議会 会議録	
開催日時	平成28年7月20日(水) 19時00分～21時10分
開催場所	山陽小野田市役所 3階 第2委員会室
出席委員	山陽小野田市地方創生協議会委員 12人 (江田座長、原副座長、半矢委員、長谷川委員、中村委員、高永甲委員、森田委員、野村委員、松原委員、小原委員、長樂委員、竹本委員)
出席職員	(事務局) 総合政策部長、企画課長、企画課課長補佐、企画課主査、企画課主査兼企画係長、企画課行革推進係長、企画課主任 (事業担当課) こども福祉課主査兼子育て支援係長、商工労働課課長補佐、観光課長、産業振興部次長兼農林水産課長、農林水産課農林係長、成長戦略室副室長、スポーツ振興課長
協議概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状交付 3 市長挨拶 4 委員紹介 5 事務局紹介 6 座長及び副座長の選出 座長に江田委員 副座長長に原委員 が選出された。 7 座長及び副座長挨拶 8 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 先行型交付金を活用した事業に関する説明と意見交換 <ol style="list-style-type: none"> ア 子育てコンシェルジュ事業 <p>【こども福祉課主査が事業内容を説明】</p> <p>○主な質疑応答</p> <p>【半矢委員】 コンシェルジュを増員する予定はあるか。</p> <p>【総合政策部長】 現在予定している子育て総合支援センターの開設後は、増員(2人体制)についても検討したい。</p>

【野村委員】

訪問回数のうち、その他19回については、具体的にどのような場所であったか。

【こども福祉課主査】

子育て世代が多く訪れる商業施設、金融機関へポスター等の設置依頼及びコンシェルジュ事業のPRを行ったものである。

○事業の評価

【座長】

(子育てコンシェルジュ事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、子育てコンシェルジュ事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

イ 子育てWEBサイト拡充事業

【こども福祉課主査が事業内容を説明】

○主な質疑応答

【座長】

携帯サイトのアクセス数はスマートフォンを除いたものであるか。

【こども福祉課主査】

そのとおりである。

○事業の評価

【座長】

(子育てWEBサイト拡充事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、子育てWEBサイト拡充事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

ウ 子育て女性等就職応援事業(再就職実践研修)

【商工労働課課長補佐が事業内容を説明】

○主な質疑応答

【小原委員】

9人の研修参加があったというが、例えば20人の参加があっても同じ金額で開催できるのか。参加人数が増えれば、その分金額が増えるのか。

【商工労働課課長補佐】

プロポーザルは10名で募集した。選定業者からは15～20人でもできるとのことであった。

【原副座長】

このお金は人件費か？ほかにも何かあるのか。

【商工労働課課長補佐】

人件費込みの委託料としている。事業にかかる費用が全て入っている。

【原副座長】

事業の実施に当たって、市で人を雇うのか。

【商工労働課課長補佐】

委託業者に講師を手配していただく。それぞれの講師の研修費、企業体験の手数料を支払う。

【高永甲委員】

他市でも同様な事業をしているが、就職の目標は7割設定が多い。10人の募集に対し、9人研修に参加され、9人全員が就職されている。ハローワークでも説明会を開催した。宇部市在住の方からも、この研修に参加したいとの相談があるなど、かなり反響があった。

【松原委員】

総合戦略における31年度の目標10人は既に達成しており、もう少し増やせるのではないか。

【企画課課長補佐】

昨年度実施した交付金を活用した事業は、総合戦略の策定に先行して実施したことから、考慮できなかった。次回以降総合戦略のKPIは協議させていただきたい。

【森田委員】

KPIの実績値は、9人の研修生全員と書いた方がよいのではないか。

なお、昨年度の理科大生の就職は100%であった。でも納得はしていない。アンケートで希望どおりの就職先かと聞いたら6割が希望どおりで残りはそうではない。質的な課題が残っており、100%にしたいと思っている。この事業でも今回9人全員が就職先として希望したものとなっているのか。

【商工労働課課長補佐】

あらかじめ希望される職種を調査した上で、希望する職種で就

労体験していただいた。皆さん希望どおりの職種に就職している。

○事業の評価

【座長】

（子育て女性等就職応援事業が総合戦略のK P I達成に有効であったと認める委員の挙手を求め）

挙手多数と認められるため、子育て女性等就職応援事業は総合戦略のK P I達成に有効であったと評価する。

エ 外国語表記観光マップ新刊事業

【観光課長が事業内容を説明】

○主な質疑応答

【中村委員】

日本に多く訪れるアジア3国（中国、韓国、台湾）からの観光客に人気がある本市の観光資源にはどのようなものがあるか。

【観光課長】

現時点ではゴルフ場が人気。花の海は体験型で興味を持ってもらえており、一番魅力的である。今後は山陽オートにも誘客を進めていきたい。

【中村委員】

東京の中山競馬場など公営ギャンブルに中国からの観光客が集まっている。山陽オートも隣の下関ポートと連携したらよいのではないか。

【森田委員】

マップ配布の効果について、地元で配っても、既に来ている人であり、ルートは決まっており意味がないと思う。

【観光課長】

次に来日されるときに参考にさせていただきたいと考えている。また、関釜フェリーでも配布しており、フェリーを利用されるツアーガイドにも配布するなどして認知度向上に向けて取り組んでいる。

【森田委員】

配布先について戦略的に検討されたい。

【小原委員】

これまで市や観光協会で実施されているものの中では不足していると考えてこの事業を実施されたのか。

【観光課長】

本市はインバウンド（外国人観光客の誘致）の取組が遅れており、その第一歩として取り組んだ。

【野村委員】

目標値について、山口県全体の外国人観光客と比較して、山陽小野田市ではこのように増えているという比較の数字が大事だと思う。

【長樂委員】

外国人観光客722人はどのように調べたのか。

【観光課長】

山口県が実施する観光動態調査に基づいている。これは、ゴルフ場、花の海などの事業所ごとに調査票を記入していただいている。

【長樂委員】

その中で外国人観光客が多いのはどこか。

【観光課長】

ゴルフ場である。

○事業の評価

【座長】

（外国語表記観光マップ新刊事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め）

挙手多数と認められるため、外国語表記観光マップ新刊事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

オ 地産地消推進事業（地域野菜の情報発信事業）

【産業振興部次長が事業内容を説明】

○主な質疑応答

【野村委員】

目標値の出荷量がリーフレットの作成とは直接結びつかないので、リーフレットに掲載されている野菜の品目別出荷量が具体的に伸びたことを示すと効果が明らかになると思われる。

【産業振興部次長】

対応していきたい。

【長谷川委員】

地産地消のためには、地元のスーパーで即売会をするなどした方がよい。実際に食べてもらう努力が必要である。これを配った

からといって出荷量が伸びることはないと思う。

学校給食の県内食材の使用率ではなく、市内産の使用率を載せるべきである。宇部市は山陽小野田市より力を入れている。

【産業振興部次長】

山陽地区では、寝太郎かぼちゃは山口県のブランド作物として宇部・山陽小野田のマックスバリュなどに出回っている。スイーツとしても厚狭高やトロアメゾンの協力で作っている。

小野田地区では、ねぎ三昧が挙げられる。関西・関東へ販路拡大している。

また、学校給食では地元のタマネギがかなり使われている。

今後も地産地消のために、地場のスーパーと協力しながら野菜のブランド化を推進していきたい。

【小原委員】

個人のお客さんがリーフレットを見て、野菜を買いたいと思ったときはどうすればよいか。

【農林係長】

リーフレットに記載している問合せ先である農林水産課にお尋ねいただければ紹介できる。

【江田座長】

小野田商工会議所に設置した七つの委員会の一つに農商工連携委員会がある。その中で特産品販売している道の駅のようなところがないという話があった。宇部市を含めて、農産物、海産物を扱う販売所があればよいと思うが、そうした考えはないか。

【農林係長】

販売者や商工会議所からの要望があるが、現時点で具体的なものはない。それに代わるものとして花の海で農産物の販売をしている。他にも100円市などある。これらを拡大していきたい。

【半矢委員】

この事業の予算はリーフレットの印刷のためだけか。

【農林係長】

3万部を印刷した予算である。

【半矢委員】

食育関係の講座や小学校、中学校にも配布しており、第一弾のリーフレットとしては成功であったと私は思う。

【農林係長】

リーフレットの配布は小学生に喜ばれた。社会見学でグリーン

ハウスに行ったりするが、地元の特産品を知らなかったりするの
で、このリーフレットを配布した。

【野村委員】

有効か有効でないかの二者択一は難しい。この指標では、効果
を継続して見ていかないと判断できないと思う。

【企画課長補佐】

国へは、有効であったか、有効とは言えないかの二択で報告し
なければならない。

【農林係長】

リーフレットは配布しただけでは意味がないので、講習会等
でも山陽小野田市の農産物をPRしていきたい。

【江田座長】

私は飲食店を営んでおり、地産地消をできるかぎり心がけてい
る。市も地産地消を心がけていただきたい。

【原副座長】

本市の野菜の周知はまだ十分にはできていないと思う。商工会
議所やJAでも知ってもらうことが大事である。祭りなどのイベ
ントでパンフレットを置いて野菜を売れば、売れると思う。売る
ためには有効な使い方ができる。これからの期待したい。

【農林係長】

いかに活用にしていくのか、お知恵をいただいた。農作物販売
につながるようにリーフレットを活用していきたい。

○事業の評価

【座長】

(地産地消推進事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認
める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、地産地消推進事業は総合戦略のK
PI達成に有効であったと評価する。

カ 公立大学法人山口東京理科大学PR事業

【成長戦略室副室長が事業内容を説明】

○主な質疑応答

【松原委員】

山口東京理科大学は山陽小野田市の地方創生の独自色と思っ
ている。一過性のものとしてはいけない。薬学部設置のほか、学園
都市づくり、インフラ整備等学生が住みやすいまちとなるよう、

スピード感を持って取り組む必要がある。

【長谷川委員】

就職が重要であると思う。卒業して山陽小野田市を出たら意味がない。地元就職先があるような、先を見据えたものがないといけない。学生が就職できる企業誘致が必要である。学生が勉強したことを活用できる企業を誘致して、地元就職してもらいたい。

【森田委員】

市長と市内や宇部市の企業を回った。学生の6割を県内で就職させたいと思っている。

来年は、他の国公立大学と試験日が一緒になるから、今年の志願者である4,600人までいくことは厳しいが、今年の志願者4,600人×受験料17,000円を考慮した受験料収入と今回の事業1,000万円の経費を比較すると効果があると感じている。

【小原委員】

宇部市に良いところを取られたら意味がない。地方創生の実現のためには、山陽小野田市独自の新たな施策が大事である。

【成長戦略室副室長】

貴重な御意見をいただいた。学園都市として魅力あるまちにしていきたい。そのために市内で協力体制をとりたい。

【竹本委員】

学生は小野田より宇部に住む人が多いと聞く。学生が住むアパート等、居住整備にも行政は力を入れてほしい。

【成長戦略室副室長】

今年入った学生221人のうち、自宅通学が37人、下宿が184人。下宿生のうち山陽小野田市居住が140人。7割程度である。そのうち3割が住民票を本市へ移している。宇部市は44人が居住している。

【江田座長】

小野田商工会議所でも産学連携委員会や地域資源活用委員会などで、小野田駅前の活用を含め学園都市づくりについて、行政と連携していきたいと考えている。

【高永甲委員】

昨年第3回の地方創生協議会の中で、薬剤師の就職の受皿として、市長が企業訪問されていると聞いた。薬学部関係の動向を

教えてほしい。

【総合政策部長】

現在、企業版ふるさと納税のPRについて、市内に事業所のある企業について、東京、大阪、広島などの本社を訪問しているところであり、その際に併せて薬学部のPRも行っている。

【森田委員】

大学でも企業200社回る予定である。

【成長戦略室副室長】

薬学部は平成30年4月の設置を予定しており、来年3月までに文部科学省へ申請を行う予定である。教員のリクルートや学生の実務実習の依頼もしている。

○事業の評価

【座長】

(公立大学法人山口東京理科大学PR事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、公立大学法人山口東京理科大学PR事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

キ 小学生PK大会開催事業

【スポーツ振興課長が事業内容を説明】

○主な質疑応答

【江田座長】

今後のレノファ山口に関する市の取組予定にはどのようなものがあるのか。

【スポーツ振興課長】

本市はホームタウンの1つである。クラブハウス機能を備えた交流施設を建設する。民間とともにレノファ山口を応援しながら、活用・支援し、市の一体感の醸成に努め、まちづくり支援につなげたい。

【野村委員】

事業の開催に当たり、日程調整において、レノファ山口との協力体制に課題があったとのことだが、このイベントを通してレノファ山口との関係が強まったというようなことがあったのか。

【スポーツ振興課長】

チーム(選手)ではなく、広報部門と協議をしていたが、レノファ山口内部での調整に問題があったと捉えている。レノファ山

口のスタッフがおわびに来られ、今後のイベント開催に当たっては選手の日程調整に万全を期すとのことであった。

○事業の評価

【座長】

(小学生PK大会開催事業が総合戦略のKPI達成に有効であったと認める委員の挙手を求め)

挙手多数と認められるため、小学生PK大会開催事業は総合戦略のKPI達成に有効であったと評価する。

(2) 平成28年度における地方創生の取組について

【企画課課長補佐が企業版ふるさと納税の取組について説明】

○主な質疑応答

【長楽委員】

市内の企業にPRが行われているか。

【企画課長】

企業版ふるさと納税は、市内に本社がない企業が対象となる。市内に工場、事業所等があり、その本社が東京等にある会社については、市長、部長等が6月からPRと寄附のお願いに訪問しているところである。

9 その他

事務局から事務連絡

10 閉会